

内容		実態調査（アンケート） での意見等（抜粋）	委員意見等（抜粋）	現計画総括より（抜粋）
スポーツをたのしむ	1-1 スポーツ活動の参画促進 （多様なライフステージやライフスタイルに応じて）	●働き盛りの年齢層が、仕事や家事・育児と両立しながら運動・スポーツの実施ができるような方策（二極化の解消）	●宇治市にある公園や小学校で、小規模でも体を動かす教室を実施すれば、子どもはスポーツをどの様なものかわかって楽しんでくれて、親も巻き込んでいけるのではないかと。 ●小中学生の子どもたちを取り込むことを重要視した計画の見直しが重要だと考える。	●スポーツイベントの参加者数が横ばいもしくは減少傾向にあることや、参加者の固定化といった状況があり、幅広い世代に向け、情報発信や実施方法の工夫が課題
	1-2 市民の主体的なスポーツ活動を支える環境整備（スポーツ施設の安全性・快適性・利便性の向上）	●働き盛りの年齢層が、仕事や家事・育児と両立しながら運動・スポーツの実施ができるような方策（二極化の解消）	●スケートボード、インローラースケートの施設も今後整備できないか。 ●ウォーキングルートを整備される場合、併せて自転車ルートも一緒に作ると2倍楽しめる。	
	1-3 障害者スポーツへの理解促進		●現計画では幼稚園から高齢者まで年齢層を分けているが、障がいのある方や高齢の方と一緒に教育していくことにも視点を。幼少時からの教育が積み重なって、色々な子達に目を向けて手を差し伸べながら、一緒に運動やスポーツ、体を動かすことから健康につなげていくことができると思う。	
	1-4 スポーツによる健康づくり、健康寿命の延伸（介護予防）	●“健康づくり”としての運動・スポーツに関する情報と、ともに活動できる仲間づくりが運動・スポーツをはじめきっかけとなる ●参加促進のアプローチ方法として、“健康・体力の増進や介護予防”の面からのアプローチ	●コロナ禍で引きこもりがちで、高齢者のフレイル予防を重視できないか。また、健康弱者へのアプローチ方法を検討すること。 ●宇治市総合計画の中で、宇治市で健康長寿日本一を目指すという目標があったので、健康体力づくりのため、長寿につながる項目もあっても良いのではないかと。	
	1-5 宇治市の特性を生かしたスポーツ施策の充実（フライングディスクなど）	●ワールドマスターズゲームズ2021関西等の大会を契機とする、さらなるまちの活性化	●ワールドマスターズ2021関西もあるため、種目を限定せず、あえて違う競技をウォームアップで行うことも多いため、フライングディスクを各種スポーツ団体に2つずつ寄贈してはどうか。	●スポーツイベントの参加者数が横ばいもしくは減少傾向にあることや、参加者の固定化といった状況があり、幅広い世代に向け、情報発信や実施方法の工夫が課題 ●ワールドマスターズゲームズ2021を契機に、フライングディスク等の活用による新たな魅力を発信し、まちづくりに活かすことが課題
	1-6 ウィズコロナ・ポストコロナ社会の事業実施・運用方法の確立		●今後、持続可能なイベントを実施していくうえで、イベントを実施された方へのインタビュー等でイベントの実施状況をしっかりまとめる必要があるのではないかと。公立小中高等で行われている運動会があれば、コロナ禍でどう実施したのかというところも調査して、まとめておくこともできるのではないかと。	●新型コロナウイルス感染症拡大防止のための、新しい生活様式における事業実施・運用方法の確立が課題

内容		実態調査（アンケート） での意見等（抜粋）	委員意見等（抜粋）	現計画総括より（抜粋）
スポーツが つな げ る	2-1 スポーツ交流の拡大		<ul style="list-style-type: none"> ●地域では、高齢の方はグラウンド・ゴルフを毎週のようにされているが、年に1～2回、小学生の子達と一緒に楽しむイベントを実施されている。核家族の場合、高齢者と身近に接する機会がない中で、地域のイベントに参加させてもらうことで、子ども達も実感できるだろうし、高齢の方も若い子と触れ合うことで、地域も盛り上がっていくのではないかと思う。 ●スポーツ協会、体育振興会、スポーツ少年団などがより相互につながりを持てると、さらにスポーツ実施者を掘り起こせるのではないかと思う。スポーツ少年団自体は小学校で終わって、その後は部活動に入っていくので、中学校に入ってからも、土日で地元の少年団とか体育振興会とかとつながることができれば、もっと広がって、途中のプランクがなくなるとスポーツ活動を続けられるのではないかと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●参加者数が横ばいもしくは減少傾向にあることや、参加者の固定化といった状況があり、幅広い世代に向け、情報発信や実施方法の工夫が課題 ●ワールドマスターズゲームズ2021関西を契機として、フライングディスクを更なるまちの活性化につなげる新しい仕組みづくりが必要
	2-2 スポーツボランティア等「ささえる」人材発掘・育成（参加協力者へのインセンティブ付与など）	<ul style="list-style-type: none"> ●潜在的な意向者の参加を促すため、日常生活の中で無理なく気軽に活動できること、参加することで得られる仲間や知識・技能、多少の謝礼・特典など、“参加することによるメリット”を効果的にPR 	<ul style="list-style-type: none"> ●学生・社会人のボランティア参加を促す取り組みとして、何か特典をつけるのはどうか。若者が参加して高齢者とのコミュニケーションを取ることで、歴史や地域の勉強が自然とできると思う。若者はそれを求めているが自分からは発信しない。実施されているものに参加すれば影響力があり、すぐ拡散されると思うので、そのための特典を考える。 ●ボランティアの人材不足打開策として、各種ボランティア参加者は、参加の度に「シリコンバンド」をもらえるシステムや、大学生インターンシップの一環として、イベント自体を大学に持っていく等を検討してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●宇治川マラソン大会について、ボランティアの高齢化等による担い手不足や全国的にマラソン大会が増えたことなどによる参加者の減少が課題となっている。今後、大会の魅力向上に努めるとともに、担い手側もやりがいを感じるような仕組みを検討 ●ボランティア役員の高齢化等によるスポーツを「ささえる」人材不足について、効果的な対策を早急に検討することが課題
	2-3 スポーツ関連団体の活動支援	<ul style="list-style-type: none"> ●大会・イベントを実施した際の感染症対策や活動継続のための工夫等について、情報共有・交換の場 ●他分野とのつながりのさらなる強化 	<ul style="list-style-type: none"> ●スポーツ協会とスポーツ少年団、体育振興会の中で情報共有できるような場があれば良い。サークル活動をされている方が、スポーツ協会に入るメリットがどのようなものか発信できると良い。問い合わせも最初に電話だと気を遣うことも多いので、メール等からできる方が敷居が低い。 	
	2-4 ウィズコロナ・ポストコロナ社会の事業実施・運用方法の情報共有	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍においてもともに活動できるような情報交換・共有の場 ●大会・イベントを実施した際の感染症対策や活動継続のための工夫等について、情報共有・交換の場 	<ul style="list-style-type: none"> ●今後、持続可能なイベントを実施していくうえで、イベントを実施された方へのインタビュー等でイベントの実施状況をしっかりまとめる必要があるのではないか。公立小中高等で行われている運動会があれば、コロナ禍でどう実施したのかというところも調査して、まとめておくこともできるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染症拡大防止のための、新しい生活様式における事業実施・運用方法の確立が課題
	2-5 スポーツ施設・団体、他分野とのつながりの強化（情報共有・交換の充実）	<ul style="list-style-type: none"> ●大会・イベントを実施した際の感染症対策や活動継続のための工夫等について、情報共有・交換の場 ●他分野とのつながりのさらなる強化 	<ul style="list-style-type: none"> ●食育のアライアンス加入団体と情報発信の面で連携できないか。YouTubeの「うーちゃんねる」を立ち上げていて、現在は発信者を募っているの、そういったものも上手く使っていたらと思う。 ●スポーツ協会、体育振興会、スポーツ少年団などがより相互につながりを持てると、さらにスポーツ実施者を掘り起こせるのではないかと思う。スポーツ少年団自体は小学校で終わって、その後は部活動に入っていくので、中学校に入ってからも、土日で地元の少年団とか体育振興会とかとつながることができれば、もっと広がって、途中のプランクがなくなるとスポーツ活動を続けられるのではないかと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●参加者数が横ばいもしくは減少傾向にあることや、参加者の固定化といった状況があり、幅広い世代に向け、情報発信や実施方法の工夫が課題 ●スポーツに係る様々な事業において、文化、観光、産業など、他分野とのつながりの更なる強化を図ることが重要

内容		実態調査（アンケート） での意見等（抜粋）	委員意見等（抜粋）	現計画総括より（抜粋）
スポーツでひろがる	3-1 戦略的な情報発信（ターゲット層に合わせた、市内外への効果的な広報戦略、情報の活用や理解促進）	<ul style="list-style-type: none"> ●身近な場や気軽に実施できる運動等の方法についての情報発信 ●“健康づくり”としての運動・スポーツに関する情報と、ともに活動できる仲間づくりが運動・スポーツをはじめるきっかけとなる ●性・年代のターゲット別による効果的な広報戦略 ●情報を必要としている人に情報が届くように発信方法の工夫 ●参加促進のアプローチ方法として、“健康・体力の増進や介護予防”の面からのアプローチ 	<ul style="list-style-type: none"> ●今後、持続可能なイベントを実施していくうえで、イベントを実施された方へのインタビュー等でイベントの実施状況をしっかりまとめる必要があるのではないか。 ●公立小中高等で行われている運動会があれば、コロナ禍でどう実施したのかということも調査して、まとめておくこともできるのではないか。 ●コロナ禍で引きこもりがちで、高齢者のフレイル予防を重視できないか。また、健康弱者へのアプローチ方法を検討すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ●参加者数が横ばいもしくは減少傾向にあることや、参加者の固定化といった状況があり、幅広い世代に向け、情報発信や実施方法の工夫が課題
	3-2 新たに開設されたスポーツ拠点との連携（施設との連携、イベントの開催）			<ul style="list-style-type: none"> ●参加者数が横ばいもしくは減少傾向にあることや、参加者の固定化といった状況があり、幅広い世代に向け、情報発信や実施方法の工夫が課題 ●新たに開設されたアイスアリーナ等のスポーツ施設でのイベントの実施等において、今後どのように連携していくのが課題
	3-3 スポーツを通じたまちの活性化	<ul style="list-style-type: none"> ●ワールドマスターズゲームズ2021関西等の大会を契機とする、さらなるまちの活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ●黄檗球場で女子野球大会を開催し、宿泊と観光をセットにしたプランを提供できないか。 ●地域や宇治市の行事(何々祭、お餅つき等)にスポーツ少年団やスポーツ協会、体育振興会が参加できるようにならないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●宇治市が京都サンガF.C.ホームタウンであることが十分に認知されておらず、京都ハンナリーズ等も含め、プロスポーツチームとの更なる連携を図ることが課題 ●新たに開設されたアイスアリーナ等のスポーツ施設でのスポーツイベントの実施等、今後どのように連携していくのが課題
	3-4 スポーツで培った宇治の魅力を生かした協働	<ul style="list-style-type: none"> ●ワールドマスターズゲームズ2021関西等の大会を契機とする、さらなるまちの活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ●有名などころではなくて、街歩きの中で小さな遺跡をアピールする。スポーツだけではなく「健康+スポーツ+地域活動」ということをしていくと、自分たちのまちを守ることにもつながるので、ぜひともそういう方法を考えられると良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ワールドマスターズゲームズ2021を契機に、フライングディスク等の活用による新たな魅力を発信し、まちづくりに活かすことが課題